

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第0191600030号		
法人名	社会福祉法人 上ノ国福祉会		
事業所名	グループホーム 勝山		
所在地	北海道檜山郡上ノ国町字勝山136-3		
自己評価作成日	令和元年7月31日	評価結果市町村受理日	令和元年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①昼・夕食前に体操をおこない、身体機能の低下を防ぐように努めている。</p> <p>②外気浴・日光浴に力を入れており、天気の良い日はなるべく外の空気にあたるようにしている。</p> <p>③利用者誕生日にはその方の食べたいものの希望を聞き、できるかぎり提供している。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	nhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0191600030-00&Ser
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和元年9月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>11年目を迎えていますグループホーム勝山は、前方に天の川、後方に夷王山を望む恵まれた環境に在る1ユニットのグループホームとなっています。運営法人であります上ノ国福祉会は、高齢者の自立支援と地域社会への貢献を基本とし、既に敷地内には特別養護老人ホームとデイサービスを開設しており、会議や防災訓練、レクリエーション活動で利用者、職員は交流を深めながら協力体制を築いています。事業所は広々とした平屋造りで、窓やテラスからの採光も良く、快適な住環境になっています。玄関やリビングには、利用者と職員が作り上げた季節感や趣きの有る作品が飾られ、温かで落ち着いたある家庭的な空間となっています。事業所は、毎年中・高生の職場体験を受け入れ、認知症に対する正しい知識と理解を持つ次世代の育成に一助を担い、啓発活動に取り組み、地域全体の福祉の向上に寄与しています。利用者は、絵本読み聞かせボランティアの訪問や保育園児との触れ合い、隣接のデイサービスに通う地元住民とのお付き合いなど、自然な形で心にも体にも優しい交流が育まれており、桜見物や汐吹公園、道の駅までのドライブも、気分転換や五感の刺激の機会として活かされるなど、職員は、法人理念を根幹として、その人らしく誇りと尊厳を大切に暮らした支援を全職員で共有し実践に努めています。職員の温かな接遇とチーム力で安定感のあるケアが提供され、利用者、家族への信頼に繋がっています。四季の移り変わりを身近に楽しむことが出来る環境の中で、利用者の笑顔が絶えない暮らしの継続に、日々取り組んでいます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を理解し、日々実践し努力している。	法人理念を基に、地域密着型事業所としての役割を認識した事業所理念と利用者との関わりを重視したケア理念を作成し、朝の申し送り時や会議にて共有を図り、統一した方向性を持ち、日々のケアサービスに努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りの見学や保育所の慰問、地域のボランティアの受け入れなどをおこなっている。	絵本の読み聞かせボランティアの定期訪問や中・高生の職場体験を受け入れています。お祭りでの神輿や保育園児の訪問、併設のデイサービスに通う地元住民との交流などふれあいを大切にしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状ではおこなわれていない。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回の運営推進会議でホームの取り組み・状況等を報告しアドバイス・助言をいただいている。会議後には家族全員に議事録を送付している。	運営推進会議は、地域代表として民生委員、保健福祉課職員、家族の参加を得て、定期的に開催しています。利用者や事業所運営の状況報告や行政からの情報等を共有し、共に課題について意見交換が行われています。議事録は家族に配布しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には参加していただいている。困難な事例を相談したり、退院後の入居者の今後について相談したりしている。	保健福祉課担当者には運営推進会議に参加頂き、事業所の現状を伝えながら情報の共有を図り、案件が発生した場合は相談し解決に向けて協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については正しく理解しており、職員会議で毎月の確認もおこなっている。また法人全体の会議や報告会などで定期的に学ぶ機会を設けている。	身体拘束適正化委員会を定期的に開催しています。指針を作成し、毎月の会議の中で勉強会を設け、適切なケアへの意識啓発を図っています。不適切な場面では注意喚起を促し、抑圧感の無い支援に努めています。リスクに関しては家族と十分に話し合い、ケアプランに反映しています。玄関は夜間のみ施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努め、職員会議・法人内の報告会などで定期的に学ぶ機会を設けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在学ぶ機会は無く、制度の周知には至っていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームの見学をしていただき説明をしている。重要事項説明書を十分に説明した上で契約を交わしている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満・苦情についてはその都度を受け止め、運営に反映させているが、外部者へ表す機会には設けていない。	殆どの利用者は意思表示が出来る状態なので、日常の会話の中で思いの把握に努めています。家族とは、来訪時や運営推進会議の機会を捉えて意見や要望を伺い運営に反映させています。季刊誌を発行し、利用者の様子を伝えています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議やその他の時間にも、意見・提案を聞くように努めている。	朝の申し送り時や毎月の会議での話し合いは勿論、職員間の風通しは良く、管理者は日頃からコミュニケーションを図る様に心がけています。代表者も毎日訪問して、状況を確認しながら職員からの要望に対応し、運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得をするための支援をしている。資格取得後には資格手当を支給している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する機会は少ない。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員は同業者と交流する機会は少ない。			
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に本人の意向を聞くように努めている。思いを伝えられない方が多いため、なるべく家族にも同席してもらうようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族の意向を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に合わせた必要な支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の支度・畑仕事・昔の行事など話を聞かせていただき、日々の生活に活かしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に何かあればすぐに報告し、家族に協力をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会できるように支援している。知人や近所の方がこられた時には、周りを気にせず談話できる雰囲気を作るように心がけている。	事業所は外部からの訪問を歓迎し、お茶を持って成し寛げる様に対応しています。隣接のデイサービス利用の友人とも交流しています。馴染みの店での買い物や美容室訪問、外食などは家族の協力を得て楽しんでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者には声かけを多くし、レク等に参加しやすい環境を作っている。また訴えを良く聞き、対立しないように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族の要望を聞き、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を聞き、把握できるように努めている。	利用者に寄り添い、一緒に話しをして、その中から出てきた言葉や様子から本人の背景にある想いについても推察す様に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の生活をできるだけ詳しく把握し、全員で共有できるようフェースシートを作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活パターンを職員全員が把握し、日々申し送っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を聞き、サービス担当者として作成をしている。	6か月毎に介護計画の評価と見直しを行っています。毎月モニタリングを行い、会議にて介護支援専門員である管理者を中心に職員同士で話し合いを持ち、本人の現状に合わせた介護計画を作成しています。状態変化時には即急に検討し、新たな計画の策定に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のバインダーを用意し、日々の生活がわかるように細かく記録用紙に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の意向に添えるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在ある地域資源の活用に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な主治医への受診支援を行っている。適切な関係・医療を受けられるように支援している。	現在は、利用者の全員が協力医を主治医とし、職員の支援により受診しています。町外の病院への受診は家族対応となっています。歯科医は週1～2回の往診で口腔ケアに努めています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤していないため、何かあれば都度主治医へ報告をおこない、受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した時には、早期退院に向けて病院関係者と連絡交換をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に説明をおこない、入居後に身体・精神状態に変化が見られた時には、家族と再度今後どうするかを相談をおこなっている。	重度化(終末期を含む)対応の指針を作成し、入居時に医療体制の説明を行い同意を得ています。状態変化時には、医師、家族、職員と話し合い、利用者、家族の望む終末期を支援していますが、殆どが医療機関や隣接の特養への移行を希望するケースが多く対応に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はおこなっていない。書籍などは用意して、いつでも見られるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をおこなっている。その年により訓練の方法を変えておこなっている。強力体制も整っている。	6月には地震想定の日火災訓練、10月には夜想定の日火災訓練を消防署指導のもとに実施しています。隣接の特別養護老人ホームとは協力体制を構築しています。マニュアルを整備し、消防用設備の定期点検を行い、備蓄品も確保しています。	近年は各地で想定を超えた自然災害が多く発生しているため、火災訓練と共に、様々な災害を想定した自主訓練を重ねて課題をあげ出し、利用者を安全に確実に避難させる方法を、全職員が身に付ける事を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには気をつけている。方言や利用者にあった言葉掛けを心がけている。	言葉や語調に留意し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めています。特に、排泄時や入浴時での接遇にも尊厳の保持や羞恥心への配慮を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	持てる力を発揮できるよう、見守りに重点を置きできる限り自分で納得して生活できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時には決まりや都合を優先させてしまうこともあるが、希望に添えるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服選びが困難な利用者には職員が状況にあったものを選んで、自分で選べる方には好みの格好してもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食の好みの確認をおこない、献立を作成している。準備や食事、片付けも毎食とはいかないが、無理のないようにおこなってもらっている。	利用者の嗜好を考慮しながら、メニューを作成しています。誕生日や季節の行事食、おやつなども利用者の要望を盛り込み、豊かな食事になる様に工夫しています。調理の下拵えや後片付け等は、利用者の意欲を引き出しながら一緒に行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の観察をおこなっている。水分摂取量も都度確認をおこない必要最低限摂れない時には代替えのものなどを考え摂取してもらっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて、声かけ・一部介助をおこなっている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを使用し、パターンを把握している。自ら排泄に行けない利用者には声かけ・誘導をおこなっている。日中・夜間で状態に合わせて対応している。	排泄が自立している利用者もいますが、羞恥心に配慮しながら、全利用者の排泄パターンを把握し、必要に応じて声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を支援しています。下着や衛生用品の使用は、一人ひとりに応じて検討しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼・夕食前に体操をおこなっている。食物繊維の多い食品をメニューに入れ、水分補給に積極的に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は火・金曜日に決まっている。状況により曜日を変更することもある。	週2回を基本に入浴日は決まっていますが、その設定に拘らず臨機応変に対応しています。気の合った利用者同士と一緒に入浴する事もあります。入浴時は歌を唄ったり、職員との1対1の会話を楽しむなどリラックス空間を支援しています。シャワー浴、足浴、清拭も取り入れ、保清に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて見守り・声かけをおこなっている。眠れない利用者に対しても状況に応じて対応をおこなっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のバインダーに服薬内容を記入・ファイリングしている。職員は使用している薬について理解している。専用品紙に服薬をチェックしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の力に応じた役割(畑仕事・家事)を持つように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自己評価	実施状況	外部評価
			散歩などは希望に応じておこなっている。天気の良い日は外へ出るように積極的に声がけ・見守り・付き添いをしている。○	気候や体調、希望に応じて、テラスでの日向ぼっこや周辺の散歩、時には高齢者対象の純喫茶に出かけ気分転換を図っています。桜見物や道の駅、汐吹公園までのドライブを楽しみ、パンやアイスを賞味するなど、季節を感じ、心身の活性化に繋がる支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し使えるように支援している。所持が困難な利用者は家族に了承を得て金庫に保管している。必要時にはすぐに使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話をかけ、取り次ぎなどをおこなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快・混乱・刺激をまねくような空間にはなっていない。置物・工芸品・花などを飾り、季節を感じられるように工夫している。	平屋造りの1ユニットの事業所で、玄関やリビングの壁には、利用者と職員が作り上げた季節毎の作品が飾られています。玄関からリビングを中心に居室や3カ所のトイレ、浴室が配置され、リビングに面したテラスからは心地よい風や陽射しを受けて開放感があり、寛げる空間となっています。温・湿度にも気を配り、悪臭も無く衛生環境も整っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	山側の廊下にソファを置き、独りで過ごしたり気のあった方同士で語り合えるようスペースを作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や、使いやすい物を使用し、心地よく過ごせるようにしている。	居室には大き目の押入れが設置され、収納に適しています。利用者は暮らす為に必要な整理筆筒やペット、テレビなど持ち込み、本人や家族の写真、趣味の品や自作品などを飾り、好きな物に囲まれて安らげる居室を作り上げています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレの場所に目印をつけてわかりやすい様に工夫している。利用者にあつた日課を作り、できることをおこなってもらうようにしている。		